北陸石仏の会々報

新庄 覚性寺の庚申塔

平井 一雄

富山市新庄町169の「覚性寺」墓地に「庚申塔(青面金剛像)」が一基ある。新川神社の左隣、奥まったところの標柱に「浄土真宗本願寺派智福山覚性寺」と刻されていて、その奥に真宗寺院特有の優美な曲線を描く瓦屋根が見える。

七月八日、私が主宰する「道ばた歩こう会」の新庄町歩きで新川神社の陰陽石を見た後、歩きはじめるとこの寺の標柱が見え、どうせ真宗寺院には石造物はないだろうと思ったが、会員の一人が近くまで入っていったのでついていくと墓地があり、無縫塔数基の間に一石五輪塔が一基見えたので写真を撮りながら周辺を見ると無縫塔に並び、この庚申塔がひっそりと建っていた。

『新庄町史』『続新庄町史』の石造物の章は石仏や絵馬の研究発表で著名な故・塩照夫氏の著述である。此の地に在住された塩氏であるから、この石塔も当然報告されているだろうと思いあらためて詳細に見てみたが、この庚申塔は報告されていない。新庄には北端の富岡町のお堂に祀られる庚申様と南端の開に祀られる庚申さま二体が現存していて両方の庚申さまを辿るコースを庚申道と呼ばれたという。この二体には寛政十二年庚申七月吉日　願主太良エ門の銘があるという記述があるのみである。

像高75㎝、砂岩製、日月と三猿が薄彫りで残る。一面六臂の立像、ユーモラスな像容。銘文はない。

覚性寺は能登国珠洲郡鵜島郷天台寺院から始まり、文明三年(一四七一)九月、四十八世玄光院法孫に至って真宗に帰し蓮如より法名を教円と賜い、これを改宗第一世とする。本尊は信州善光寺の仏体に擬した尺五の木像なりと伝える。

一石五輪塔は其の頃の遺存物かもしれないが庚申塔は近代に、此の場所に移動したものだろう。元の位置は不明である。無縫塔数基は覚性寺歴代住職の墓標だろう。弘化三年、釋■■、■■法師の銘文が残り、真宗寺院の墓地であることがはっきりしている。

第43号

平成25年9月10日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 北村市朗

〒939-1315

富山県砺波市太田1770　尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

予告

北陸石仏の会

研究紀要第11号

今秋刊行予定

島田の石仏

滝本 やすし

白山市(旧松任市)島田町の八幡神社向かいに、島田の石仏と称される五基の板碑が建てられている。これらは二百メートルほど東のチブイ原と呼ばれる場所から移されたものである。このあたりは、手取川扇状地のほぼ中央である。平成元年八月に市の教育委員会によって調査が行われ、同十一月に市指定文化財となった。平成三年十一月に、現状に整備されている。奥行のあるどっしりとした大型の板碑であり、石川県内では他に類例をみないものである。いずれも室町時代の作と推定される。

①いちばん右の板碑は淡青緑色粗粒凝灰岩製であるが、損壊が激しく残欠のみで、形状も不明である。

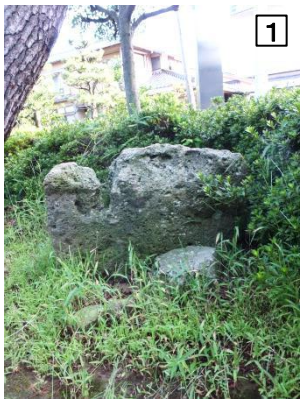
②右から二番目の板碑は淡褐色粗粒凝灰岩製で、舟型に彫りくぼめた中に尊像を浮彫りしている。こちらも剥落が激しく尊名を特定できないが、踏割蓮座上に立像が彫られているように見える。しかし踏割蓮座上に立つ場合は両足を少し開いて立たないといけないのだが、この尊像はほとんど足を開いていない。普通の蓮座として彫られたものが偶然踏割蓮座のような形に剥落したのであろうか。中央で二つに割れていたのだが、調査の際に修復された。

③中央の板碑は凝灰角礫岩製で、舟型に彫りくぼめた中に尊像を浮彫りしている。剥落が激しく尊名を特定できない。これら五基の中で最も大きく、高さ180cmほどであり、力強さが感じられる。

④左から二番目の板碑は淡青緑色細粒凝灰岩製で、前面が大きく剥落している。おそらくは何らかの種子が陰刻されていたのであろうが、全く判読できない。

⑤いちばん左の板碑は淡青緑色粗粒凝灰岩製で、金剛界大日如来の種子であるバンが陰刻されている。他の四基よりも簡素な形状であり、これらの中では最も古いものと推測される。

これら五基の板碑は石材が若干異なることから、同時に作られたものではなさそうである。しかしいちばん左の一基以外は手法に共通点がみられるので、同一人物の手によって順に作られたのだろうか。



第46回例会の報告を、二名からいただきました。

第46回例会報告

倶利伽羅峠と周辺の石仏めぐり

平成25年5月12日（日）

酒井 靖春

この日は快晴で気持ちのよい一日でした。

午前中は津幡町文化財保護の副会長芝田悟氏から各見学場所の案内と説明を頂きました。

最初に津幡町杉瀬猪塚は急な木の階段を登った高い所にあり、到底一人で見に行きたいと思えないような、そんな場所にある石碑でした。

高さ一メートルほどある円柱の石碑で、梵字が書かれてありました。江戸時代の石碑で、ある時期イノシシ被害が多発し、大量に駆除されたイノシシを弔ったということでした。これには、自分の干支が亥年生まれだけあって、何だか親近感がわきました。

次に津幡町倉見の徳本名号塔と義賢名号塔を見学しました。芝田氏の話では新田義貞の祖先にあたる方の建立とのことでした。また芝田氏の説明で義賢名号にある葉を横にした花押の説明で、これは蓮の蕾みで自分はまだ修行のたりない者だという謙虚さからの表現では？と解説され、とても感心致しました。

それから津幡町鳥越の弘願寺跡の宝塔を見学しました。宝塔は神社の境内にあり、間近に見ることができ感激でした。

津幡町笠池ヶ原の三観音もとても良いつくりで、聖観音・千手観音・准胝観音並んでおり平井氏に千手観音と准胝観音の違いを解説してもらい、とても参考になりました。また尾田氏から仏像の写真の取り方や心構えを教えて頂いたことは、私自身の今後の撮影にも取り入れていきたいと思いました。

有聲寺では義賢名号塔と徳本名号塔が、津幡町倉見と同じように並んでいるのに興味を持ちました。

津幡町山森白山社では、始めてご神体の菊理姫様を見ることができ、なんとも貴重な体験をさせて頂きました。同行されていた倶利伽羅神社の宮司さんが、自分たちもご神体は見ることはめったになく、また見ることがあっても菊理姫様という神様にどのようないわれがあるか、どのような神様かよくわからないと話され、大変驚きました。

私も菊理姫様といえば、石川県の白山神社の神様であるということぐらいしか思いつきませんが、このようにご神体を見せて頂けるチャンスを頂けたのは、大変光栄なことであると、感謝致しました。

倶利伽羅不動の駐車場で芝田氏は所用の為に帰られ、その後昼食を倶利伽羅不動にあるお店で取り、午後の見学は倶利伽羅の手向神社の中にある石殿と五輪塔等を見せて頂きました。これらも一人ではとうてい見ることのないもので、とてもうれしく思いました。

国見山山頂の四社権現石殿からの眺めは、立山連峰が見えて最高でした。小矢部市埴生医王院では、倶利伽羅峠三十三観音が十一体集まっていて、お寺さんの許可得て一体一体写真に撮ることができました。いつか他の観音さんも訪ね歩こうと思います。

医王院の閻魔堂内で尾田氏が閻魔庁について解説され、その内容があまりにもリアルに感じ、明日はわが身！と、覚悟する思いでした。

小矢部市道林寺の南家では、大きな宝篋印塔見学させていた上、お茶やお菓子を頂きました。南家から離れる時には、家族の方々から見送りを受けました。とても温かいおもてなしに、この定例会を計画頂いている滝本氏のお人柄の賜物ではないかと、とても感動致しました。

小矢部市松永の馬頭観音、十一面観音、如意輪観音は、前の津幡町笠池ヶ原の聖観音、千手観音、准胝観音と同一で六観音として作られたものだと、滝本氏から解説を受けました。

今まで個人的には、三十三観音に着目してきただけに、六観音というのは

初めて耳にしたので、大変興味を持ちました。自分自身の視野も広げていけたらと思います。

また、この十一面観音を見ていると、長野県高遠の石工の作風にも似ているように感じました。

最後に小矢部市松尾の蔵王権現に行き、この石仏もご神体であると解説され、今回の例会で数多くのご神体を見学させて頂き、廃仏毀釈を少しでも感じることができたのではないかと思いました。

第46回例会報告

倶利伽羅峠と周辺の石仏めぐり　平成25年5月12日（日）

川端　典子

五月の爽やかな青空の下、北陸石仏の会第46回例会の「倶利伽羅峠と周辺の石仏めぐり」に参加させて頂きました。早朝、待ち合わせ場所のJR津幡駅前でマイクロバスに乗った皆さんと合流。実は、石仏の会には初参加のうえ、知人を介しての申し込みのため、顔見知りが一人もいません。しかし、早朝とは思えない皆さんの明るく楽しそうな様子に、一日有意義に過ごせる予感がして嬉しくなりました。いつもは居住地の富山県朝日町周辺を一人で散歩しながら石仏を楽しんでいる私ですが、「（知識の）バケモノ」と呼ばれる先生達や、それぞれに興味の対象が異なる会員の方々と一緒にめぐることで、また違う楽しみを見つけることが出来ました。中でも、特に印象に残った石仏（石碑）をご報告したいと思います。

【津幡町倉見　路傍／徳本名号塔、義賢名号塔】写真①、右側：徳本名号塔、お地蔵様を挟んで中央：義賢名号塔

いずれも鳥屋尾産の砂岩で出来ています。風雨にさらされているため表面は激しく摩耗しており、だんだんと削りとられていくのが残念だと思いました。しかし、台座を含めると二メートルを超える大きさのため、並んでいると大変な迫力があります。普段歩いている富山県東部にはこの規模のものは少ないので、はっと目を奪われました。

前面に刻まれている蓮のつぼみ。つぼみの上に「義賢」と刻まれた文字が乗っています。（写真②）満開の蓮ではなく、まだ蕾の上に乗ることで、自身の未熟さを表現しているのでは？とお話がありました。こういうエピソードを伺うと、とてもほほえましく、石碑が身近に感じられます。

【大国主神社内　津幡町鳥越　弘願寺跡／宝塔】（写真③）

大国主神社のある場所は、周囲に土塁や堀跡が点在し、城郭寺院の特徴があると説明がありました。背後は小高い山になっており、今でもアヤシゲな雰囲気がたっぷりです。

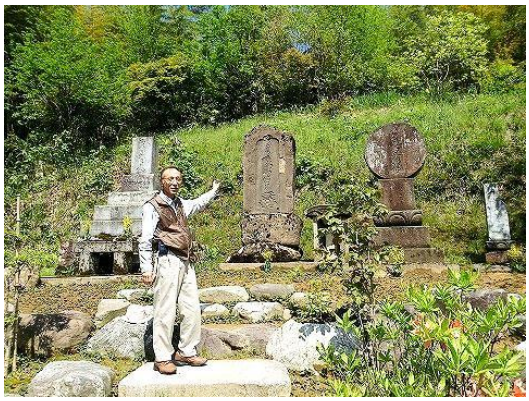
境内に建てられている宝塔は安山岩製で、相輪上部が欠損しています。やや小ぶりですが、塔身の四方には扉形、屋根の裏側には垂木が彫られているなど、驚くほど丁寧な仕事ぶりがわかります。特に、垂木部分には雨が直接当たらないため、摩耗も少なく、綺麗な形が残されています。長い歳月を経てなお残る美しさに、しばらく目が離せませんでした。

【聖観音、千手観音、准胝観音／津幡町笠池ケ原　路傍】（写真④）

【馬頭観音、十一面観音、如意観音／小矢部市松永　路傍】（写真⑤）

高さ80㎝ほどの観音様です。三体ずつそれぞれ津幡町と小矢部市にあるものですが、この六体は石材、法量、手法が同じであることから、もとは同じ場所で祀られていた六観音だろうとお話がありました。これは、今回初めて発見されたそうです。石仏の歴史的背景を考えるとき、現代の行政の区割りで考えてはいけないと改めて思いました。

この他にも、倶利伽羅の手向神社石殿（写真⑥）を拝見させて頂いたり、国見山頂の四社権現石殿の本来の御神体を紹介して頂くなど、一人では出来ない有意義な体験をさせて頂き、とても楽しい一日となりました。



写真①

写真②

津幡町倉見　徳本･義賢名号塔前にて記念撮影

写真③

津幡町倶利伽羅　手向神社にて記念撮影

写真④

写真⑥

写真⑤

北陸石仏の会 第４７回例会

― 旧三国町・芦原町の石仏めぐり ―

平成２５年１０月２０日(日)

参 加 費：５０００円（バス・資料代）
集合場所：①大沢野文化会館……６時２０分
②ＪＲ砺波駅南口……７時００分
③ＪＲ森本駅……７時３０分
④北陸道上り徳光ＰＡ…８時２０分
⑤ＪＲ芦原温泉駅……９時１０分
申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。
住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所
申 込 先：〒939-1315　砺波市太田１７７０　尾田武雄方　北陸石仏の会事務局
締め切り：平成２５年１０月１０日(木)
案　　内：滝本やすし(金沢市)

◎坂井市三国町滝谷1丁目　瀧谷寺／開山堂(十三仏石龕)、阿弥陀如来、宝篋印塔
◎坂井市三国町神明1丁目　月窓寺／義賢名号塔
◎坂井市三国町南本町4丁目　性海寺／善光寺式阿弥陀三尊、一石十三仏、多宝塔
◎坂井市三国町山王2丁目　妙海寺／弁財天、十一面千手観音、五重塔
◎坂井市三国町覚善　路傍／勢至菩薩
◎坂井市三国町加戸　加戸神社／善光寺式阿弥陀三尊、稲荷神、白山狛犬
◎坂井市三国町池上　伊伎神社／白山三所権現、雨宝童子三尊
◎坂井市三国町玉ノ江　春日神社／双体神像、如意輪観音石祠
◎あわら市宮前　御前神社／西国三十三ヶ所観音石龕、観音石祠
◎あわら市堀江十楽　神明神社／聖観音石祠、虚空蔵菩薩
◎あわら市北潟東字寺崎　路傍／愛の神
諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

平成２５年度会費未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は３０００円です。